



※vol.14の表紙画像

妖怪マガジン『怪』と怪談専門誌『幽』が劇的に合体！！
すべてのお化け好きに贈る、エンターテインメントマガジン



妖怪マガジン「怪」と怪談専門誌「幽」。「妖怪」と「怪談」という、似て非なるコンセプトを打ち出したふたつの雑誌が「怪と幽」に生まれ変わりました。
「怪」「幽」両誌のブランドを受け継ぐと同時に、よりエンタメ性に主軸を置いた「怪と幽」独自の特集と強力な連載陣、そして、お化け関連の周辺情報なども掲載し、お化け好きの読者に贈るエンターテインメント・マガジンを目指します！

＜料金表＞ 入稿日(完全データ入稿)：発売日30日前 ※年末進行

広告 スペース	原稿サイズ 天地×左右(mm)	印刷	料金 (税抜)	申込日	入稿日
表4	165×138	4cオフ	500,000円	11月16日	11月24日
表3	210×148	4cオフ	300,000円	同	同
中面	210×148	1cオフ	150,000円	同	同
縦1/3頁	182×36.5	1cオフ	50,000円	同	同

＜媒体データ＞

【発売日】年3回(4月、8月、12月)
【予価】2000円(税別) 【判型】A5判
【創刊】2019年4月24日
【想定男女比】男性40%：女性60%
【発行部数】20,000部

■Vol.015 2023年12月22日発売号ご案内

特集 怪と湯

世界でも有数の温泉地帯である日本では、縄文時代から温泉が親しまれていたという。『古事記』『日本書紀』『風土記』にも記述があり、人間のみならず神々や化け物を癒した湯の言い伝えが数多存在している。およそ名湯と呼ばれる古い温泉地には決まって開湯伝説があり、鳥獣や名僧や異形なるモノが発見した霊泉は、時代を超えて人々を魅了し続けている。怪しくゆらめく湯けむりの向こうは地獄か極楽か——いずれも幽世なれば、いざ行かん。

【復刻】岡本綺堂「温泉雑記」 【鼎談】加門七海×南條竹則×東雅夫 「湯は創造の源である」 修善寺温泉にて

【寄稿】伊藤克己／菱川晶子

【ルポ】村上健司×多田克己「妖怪旅おやし 特別編」

【ルポ】「京極夏彦、日光へ行く」

【寄稿】ショートエッセイ「怪しい湯の魅力」 朱野帰子、有栖川有栖、黒木あるじ、今野敏、つげ正助、内藤了、花房観音、夢枕獏

【ガイド】「諸国温泉伝説ガイド」 【ブックガイド】朝宮運河「湯けむりブックガイド」

◆そのほか連載多数

【小説】京極夏彦、小野不由美、有栖川有栖、山白朝子、恒川光太郎、澤村伊智 【漫画】諸星大二郎、高橋葉介、押切蓮介

【論考・エッセイ】東雅夫 【グラビア】尾崎伊万里、芳賀日出男、佐藤健寿、怪食巡礼

◆新刊インタビュー、対談ほか

北沢陶（横溝正史ミステリ&ホラー大賞受賞者）×澤村伊智、尾八原ジュージ×饗庭淵（ともにカクヨムWeb小説コンテストホラー部門受賞者）、似鳥鶏×今村昌弘、大明敦、大谷亨、浅草ロック座（橋下まこ）、くらやみ遊園地、オカルトエンタメ大学、『業界怪談』 etc. …